

【今週の注目疾患】

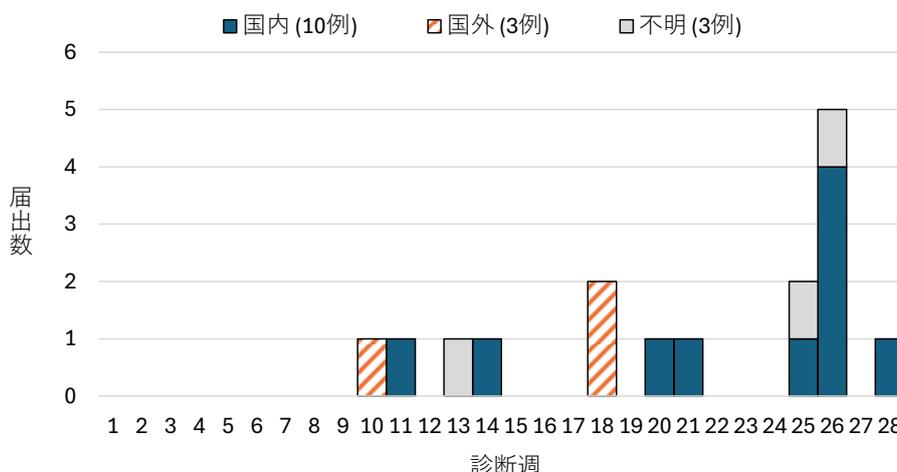
《麻しん (はしか) 》

2025年第28週に県内医療機関から1例の届出があり、本年の累計は16例となった(図1)。

この1例に予防接種歴はなく、推定感染地域は国内(県外)であった。

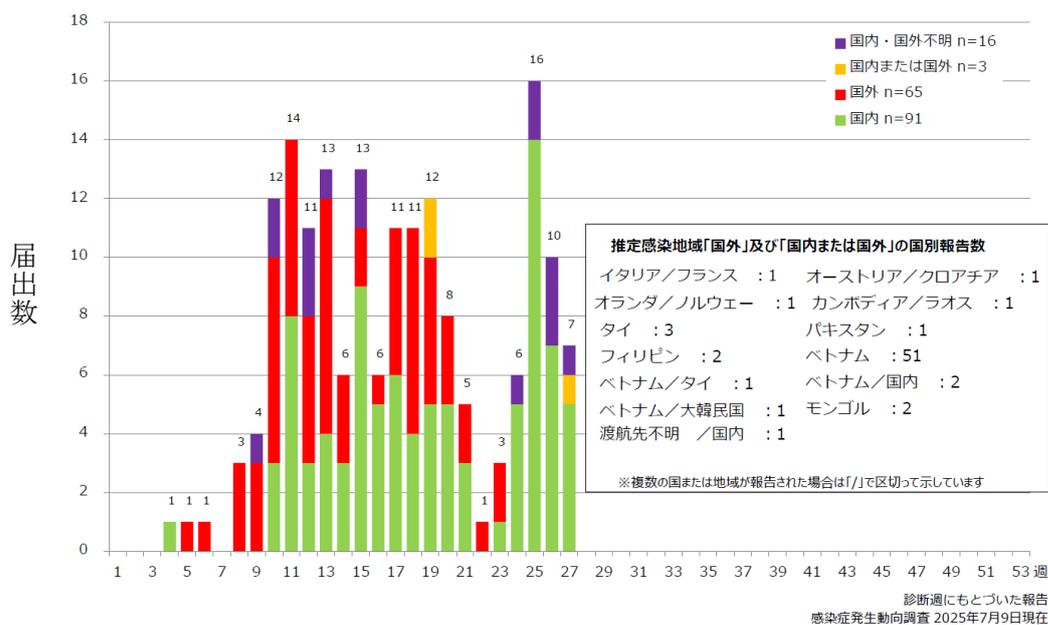
県内及び近隣都県において届出が続いており、また、海外における流行が報告されているところ海外渡航者の増加する夏休みを迎えることから¹⁻³⁾、引き続き発生動向に注意が必要である。

図1：2025年の千葉県の麻しん 診断週別・推定感染地域別届出数 (2025年第28週時点)



全国では第27週に神奈川県で7例の届出があり、累計175例となった。175例の推定感染地域は、国内が91例(52%)、国外が65例(37%)、国内又は国外が3例(2%)、不明が16例(9%)であった(図2)⁴⁾。

図2：2025年の全国の麻しん 診断週別・推定感染地域別届出数 (2025年第27週時点)



(図2は、国立健康危機管理研究機構の公表資料⁴⁾から転載)

麻疹とは

感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状で発症し、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発しんが出現する。肺炎や中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎を発症すると言われている。また、死亡する割合は、先進国であっても1,000人に1人とされる。その他の合併症として、10万人に1人程度の頻度ではあるが、感染してから数年が経過した後、特に学童期に予後が悪い亜急性硬化性全脳炎(SSPE)と呼ばれる中枢神経疾患を発症することもある。

麻疹は感染力が強く、空気感染もするため、手洗いやマスクのみでの予防は困難であり、予防接種が最も有効な予防法といえる。予防接種により感染リスクを最小限に抑えることが可能であり、定期接種の機会(第1期:1歳児、第2期:小学校入学前1年間の幼児)に確実に予防接種を受けることが重要である。罹患歴がなく、予防接種歴がないもしくは不明な場合は、かかりつけ医に相談いただきたい。

なお、海外での流行が報告されていることから、特に海外への渡航前には予防接種歴を確認いただき、また、帰国後2週間程度は高熱や全身の発しん、咳、鼻水、目の充血などの症状に注意いただきたい¹⁻³⁾。

■参考・引用

1)厚生労働省:麻疹について

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

2)厚生労働省:「麻疹(はしか)」は世界で流行している感染症です。【出国前】

<https://www.mhlw.go.jp/content/001509124.pdf>

3)厚生労働省:「麻疹(はしか)」は世界で流行している感染症です。【帰国後】

<https://www.mhlw.go.jp/content/001509133.pdf>

4)国立健康危機管理研究機構:麻疹 発生動向調査

<https://id-info.jihs.go.jp/relevant/vaccine/measles/060/measlesdoko.html>

【Topics】

《夏休みに海外へ渡航される皆様へ》

海外においては、国内では見られない感染症が流行していることがあり、海外滞在中に感染する可能性があります。海外へ渡航する際には、事前に渡航先における感染症の流行状況、現地滞在中の注意点、海外渡航に際し推奨されている予防接種をご確認ください。

また、感染症には、潜伏期間(感染してから発症するまでの期間)が数日から1週間以上と長いものもあり、渡航中や帰国直後に症状がなくても、しばらくしてから具合が悪くなる場合があります。その場合は、医療機関に事前に電話連絡して海外渡航歴があることを伝えた上で受診し、渡航先、滞在期間、現地での飲食状況、渡航先での活動内容、動物との接触の有無、ワクチン接種歴等についてお伝えください^{1,2)}。

■参考・引用

1)厚生労働省:海外へ渡航される皆様へ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou18/index_00003.html

2)厚生労働省検疫所 FORTH:海外へ渡航される皆さまへ!

https://www.forth.go.jp/news/20220722_00001.html